

## 小笠原諸島編集後記

第1版

今回のビデオ編集は映像分析と評価・シナリオ作成・音楽探しが約2ヶ月、映像編集・アフレコが約1ヶ月です。

今回もガラパゴスと同様にアフレコする音楽の選曲に大変苦労しました。陸の音楽は小笠原へ行く前から作戦を練って、シナリオを考えながら撮影したため、早目に目処が立ち7曲がすぐに決まりましたが、海に合う音楽は難しく見つけるのに大変時間が掛かりました。所有CD100枚以上と今回、小笠原のビデオ用に購入したCD8枚から最終的に約50曲を選び出し、その中から映像を見ながらマッチした8曲を決めました。

ビートマスター（FISH EYEのダイビングボート）の帰港用に『ジュピター（木星）』をアフレコしましたが、有名な2大指揮者のカラヤンとホルストのどちらの曲が合うか分からないためCDを2枚共購入し、最終的にカラヤンに決まりました。

折角、壮大な音楽をアフレコしたのに映像がカメラのパン（横移動）ミスでカクンカクンと数回、腰折れしてスムーズな動きになっていなかったのが本当に残念で、下手なカメラワークを反省しています。

APPENDIX（附録）の『アメージング・グレイス』は帰る日に、おがさわら丸を見送りに来た人を撮影している時に決めました。

只、『白い巨塔』のテーマソングは音声が入ってさみし過ぎるので、音声が無い壮大なイメージの演奏を探しました。インターネットから『アンドレ・リュウ』のバイオリン演奏を見つけてCDを買ったところ、自分のイメージにピッタリと合いました。オープニングの、おがさわら丸父島入港の『ケルツ』は行く前から決まっていました。

地球規模の天候異変で8月は非常に台風が多く、天気はかなり悪かったためケータに行けなかったため、映像は大物が少なく、どちらかと言うとマクロ系のビデオになりました。しかし、さすがに日本一の海だけあって父島の近くだけでも珍しい生物やシーン、固有種がたくさん撮影できました。ヘルフリッチ、ユーゼン、ミナミスズミのアルビノ（白化）、カクレクマノミ団地、カノコイセエビの産卵、ハゼとエビの共生、ハナヒゲウツボの食事シーン、トンネル等々。また、透明度も30m前後で撮影には最高でした。

ハンマーヘッド1匹をエントリー直後、かなり近くで見ましたが、ビデオカメラの前面ドームポートカバーを外す前でしたので残念ながら撮影できませんでした。ローニンアジ、マンタ、マダラトビエイ3匹を撮影しましたが、かなり遠かったため画質が悪く、編集には使用できませんでした。

今回の最大目的でしたリブリーザー器材での撮影とベイルアウト器材での撮影を比較するとライトを使用して撮影した場合は殆ど差がないように感じました。使用しているSunRay-S-Proライトは光量が5500ケルビンで太陽光に近い白色灯ですが、その光は人間でも直視できない程かなり眩しいため、強い光に慣れていない水中生物にとっては本当に眩しいと思います。

ターゲットとの距離が大体 3 m 以上離れるとライトの光が届かないため使用しませんが、3 m 以内は必ずライトを使用して明るい映像にし、生物の本当の色を出すようにしています。

**プロもアマも映像はライトが命だと思います。**

BBC の映画『Deep Blue』は大変珍しいシーンが多かったのですが、映像がかなり暗かったので非常に残念でした。

小笠原へ行く前にこの映画を観たので、小笠原では必ず明るい映像にすると決め、その思いを込めてタイトルを『Pure Blue』に決めました。

以上  
浜谷 優